










令和3年 **1 1**月の大阪森林便り

目次

今月の木の話 杉の巨樹

- (1)  宅配用スプーン木製に すかいら一く、1月から
- (2)  米松製材品、最高値を更新
- (3)  木材自給率上昇 41.8% 昨年、48年ぶり水準
- (4)  森林にも迫る高齢化 CO₂ 吸収、ピークの8割
- (5)  バイオマス 林業再興の芽 発電容量、愛知が首位
- (6)  関西の緑守るバイオマス 木質燃料で発電、5年で3倍に
- (7)  国産合板、14年ぶり高値 住宅復調、供給追い付かず
- (8)  針葉樹合板 大幅値上げ セイホク、8~10% 11月分から
- (9)  集成材原料 3%安 10~12月対日価格 5四半期ぶり下落



今月の木の話

杉の巨樹

*杉の天然記念物の件数は、どの樹種よりも多くあります。

*杉の巨樹（地上1.3Mで幹回り3M以上）の数は13,681本。

・2位のケヤキは8,538本、3位のクスノキは5,160本。

☆杉の巨樹ベスト10

順位	所在地	幹回りの長さ (M)	通称等
1	上屋久島町 (鹿児島)	16.1	縄文杉
2	三川村 (新潟)	16.0	将軍スギ
3	大豊町 (高知)	15.0	杉の大スギ
4	天津小湊町 (千葉)	14.2	清澄の大スギ
5	白鳥町 (岐阜)	14.0	石徹白のスギ
6	根羽村 (長野)	13.8	月瀬の大スギ
7	上矢作町 (岐阜)	13.6	弁慶杉
8	屋久町 (鹿児島)	13.5	紀元杉
9	椎葉村 (宮崎)	13.3	八村スギ
9	糸魚川市 (新潟)	13.3	杉之当の大杉

(2008年発行 (社)大阪府木材連合会・大阪木材仲買協同組合発行「天然記念物 巨樹・古木」より抜粋・引用)

(1)  **宅配用スプーン木製に すかいらーく、1月から**

* 外食チェーン最大手のすかいらーくホールディングスは、持ち帰りや宅配で提供するプラスチック製のスプーンやフォークなどを2022年1月からすべて木製に。

* 「プラスチック資源循環促進法」の2022年4月からの施行を控え、外食中心に「脱プラ」の対応が加速。

* 課題はコスト。ローソンの実証実験では、切り替えコストは約3倍に。

* 日本KFCホールディングスは、プラスチック製のマドラーを年内にも木製への切り替えを検討。

(2021年10月5日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2)  **米松製材品、最高値を更新**

* 米松製材品の流通価格が一段と上昇し、最高値を更新。

* 米松KD平角は、東京地区の間屋卸値が前月比11%高。

* 集成平角も7%上昇。

* 集成管柱も11%高。

* 最高値を付けた欧州産の引き板材「ラミナ」が入港。

(2021年10月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3)  **木材自給率上昇 41.8% 昨年、48年ぶり水準**

バイオマス需要増加

* 木材のうち国産材の割合を示す「木材自給率」が、2020年は大幅に上昇。

* 2019年比4ポイント増の41.8%と、1972年以来48年ぶりの高水準。

* 伸び率も過去最大。

* 2020年の木材全体の国内生産量は3114万9千m³と0.5%増。

* 建築用材の供給量は1581万m³と10.3%減。

* 輸入品の供給量は4329万m³と前年比15%減。

* バイオマス発電向けなど燃料用の国内生産量が892万7千m³と、前年比28.8%増。

* 2021年に入り、住宅着工が旺盛な米国で需要が急増し、日本への輸入が減る「ウッドショック」が起きました。国産材は代替品として注目されています。

- * 公共建築物等木材利用促進法が改正され、10月1日に施行。
 - ・ 公共物だけでなく、民間の建築物も木材の利用が促されます。
- * 国産の製材用丸太の工場への入荷量は、1~6月で合計約624万8千m³。
 - ・ 前年同期比では7万3千m³（1%）増えましたが、コロナ禍前の2019年の同時期を7%下回ります。
- * 製材品そのものの需要がけん引する自給率の向上には、供給体制の確立が不可欠。

（2021年10月8日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

(4) 森林にも迫る高齢化 CO₂吸収、ピークの8割 脱炭素や防災の壁

- * 全国的人工林の過半が50歳を超え、高齢化が目立ってきました。
- * 手入れされていない放置林は台風などの災害に弱く、二酸化炭素（CO₂）の吸収源としても認められません。
- * 間伐を怠っていると、日が当たりにくくなります。
 - ・ 木々は細くなり、草の根づかない地盤はもろくなります。
- * 伐採後の造林が計画通りに進んでいない「造林未済地」は2017年度に約1万1400ヘクタールと、3年前より3割増えました。
- * 50歳を超える森林は500万ヘクタールを超え、人工林全体の半分以上を占めます。
- * 日本の森林が吸収するCO₂は2014年度の5200万トンが直近のピークで、2019年度は約2割少ない4300万トンまで減ったと推計されます。
- * CO₂を取り込む量は樹齢40年を過ぎて成長が落ち着くと頭打ちに。
- * 手入れされて一定の日照などを確保できる森林でなければ、CO₂吸収源として国際的に認められません。
 - ・ 国内的人工林約1000万ヘクタールのうち、既に2割程度は吸収源に算入できないとの見方もあります。
- * 2020年に杉丸太の売り上げから経費を引いた金額（立木価格）は、1m³あたり2900円。2万円を超えていたピークの1980年ごろの1割程度。
- * 2020年の建築木材の総需要量に占める国産の割合は半分弱。
- * 林業にとって、機械化による生産性の向上、複雑な所有権の整理など取り組むべき課題は多くあります。

（2021年10月10日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

(5) バイオマス 林業再興の芽 発電容量、愛知が首位

*バイオマス発電の国内の設備容量は、5年で2.5倍に。

・「固定価格買い取り制度（FIT）」で認定されたバイオマス発電容量は、2020年末時点で全国402万キロワット。2015年の160万キロワットから拡大。

*発電に使われる燃料は、端材を加工した木質チップや農作物の残渣などが48%で最多。木質以外の一般廃棄物27%、建築廃材12%、間伐材由来の未利用木質11%、メタン発酵ガス2%。

*発電容量トップは愛知県で37万キロワット。

*国の新しいエネルギー基本計画案では、2030年度に電源全体に占める再生エネの構成比を現行目標の22~24%から36~38%に高めることを狙います。

*バイオマス発電の比率は3%程度。

・燃料を燃やして発電する以上、温暖化ガス削減効果が乏しいとの指摘も。
(2021年10月16日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(6) 関西の緑守るバイオマス

木質燃料で発電、5年で3倍に 和歌山・新宮、2箇所新設

*関西6府県の木質バイオマス発電容量は、この5年間で約3倍に拡大。

*関西6府県で2020年12月末時点で固定価格買い取り制度（FIT）で認定されたバイオマス発電容量は30万キロワット。

*木質バイオマス発電の普及は森林の保全、育成と一体になった環境づくりが重要。

*2020年の木材自給率は1972年以来、48年ぶりに40%台を回復。

(2021年10月16日 産経新聞記事より抜粋・引用)

(7) 国産合板、14年ぶり高値

住宅復調、供給追い付かず

*国産合板の流通価格が一段と上昇、14年3カ月ぶりの高値。

*針葉樹合板12mmの東京地区の間屋卸価格は、9月中旬より8%高。

・2007年7月以来の水準。

*針葉樹合板の在庫量は8月末、前年同月比38%減少。

・通常在庫は十数万M3で推移しますが、4か月連続で10万M3を割る低水準。

*8月の木造住宅の新設着工戸数は44,587戸で、前年同月比16%増。

*8月の針葉樹合板の生産量は減産していた前年同月と比べると17%増えたものの、コロナ前の2019年8月比では5%少なくなっています。

*2020年の春から夏にかけ、合板メーカーは2~3割の大幅な減産体制を敷きました。

・工員を減らしたメーカーも。すぐに再雇用することは難しく、稼働能力が上がりません。

*原料の丸太価格も上昇。

・合板に使う杉丸太の9月価格は、前年同月比で16%高。

*輸入合板も最高値を更新。

・コンクリート型枠用合板は、前月比3%高。

・構造用合板も3%上昇。

*合板を含めた木材は、木造住宅の建設費の約1割。

(2021年10月22日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(8) 針葉樹合板 大幅値上げ セイホク、8~10% 11

月分から

*合板最大手のセイホクは、国産針葉樹合板を11月出荷分から8~10%引き上げ。

*世界的な木材高の影響で原料となる国産丸太の価格が上昇。

*原油高を背景に接着剤の価格も高くなっています。

*住宅着工も回復傾向で、在庫は低水準。

・9月末の国産針葉樹合板の在庫は前月末比で2.8%、前年同月末比では31.5%少なくなっています。

(2021年10月28日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(9) 集成材原料 3%安

10~12月対日価格 5四半期ぶり下落

*集成材の原料となる引き板材「ラミナ」の対日輸出価格が5四半期ぶりに下落。

*欧州産の10~12月期価格は、7~9月期に比べ約3%安。

*米国で相場が急落したため。

*米国の木材相場は足元で再び上昇傾向。

*10~12月期に下落したラミナが入港するのは年明け以降の見通し。

(2021年10月29日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)